

(別記)

滝上町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、オホーツク海の気象圏にあたり、北見山脈の中にあつて三方が山に囲まれ、その中央を天塩岳に源を發した渚滑川が各支流を集めて貫流し、この流域が農耕地として広がつており、盆地特有の気象条件となることが多い。このため夏は30℃を超え、冬は-30℃以下となり、寒暖の差が著しい地域であり、長雨により農作物に被害を与えることがある。

また、畑作・酪農がほぼ同数存在しており、耕畜連携が進んでいるが農家の高齢化と畑作農家の後継者・担い手不足が問題となっている。麦など機械化が進み比較的手作業が必要ない作物については問題がないが、てん菜、南瓜など手作業が必要となる作物の作付面積の減少が顕著となっている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米（作付なし）

(2) 非主食用米（作付なし）

- ア 飼料用米
- イ 米粉用米
- ウ WCS用稲
- エ 加工用米
- オ 備蓄米

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦について、地域の気象条件に合致した品種の導入を進め、病害虫対策により高品質小麦の増産を図り、受け入れ態勢においても施設整備等の充実を図っている。

(4) そば、なたね（作付なし）

(5) 野菜

- ・てん菜：湿害対策及び病害虫対策により品質の安定・向上を図り、直播栽培による労働力の省力化を図る。
- ・スイートコーン：労働力の省力化や機械化により、品質の安定・向上を図る。
- ・南瓜：労働力の省力化や機械化により、品質の安定・向上を図る。
- ・紫蘇：労働力の省力化や機械化により、品質の安定・向上を図る。

(6) 不作付地の解消

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米			
飼料用米			
米粉用米			
WCS 用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦	362.87	415.77	420.00
大豆			
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物			
野菜			
・てん菜	88.37	86.00	90.00
・スイートコーン	147.39	116.00	140.00
・南瓜	17.1	20.40	33.00
・紫蘇	26.25	33.20	20.00

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	取組	分類※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (目標値)	28 年度の 支援の有無
					()	()	
					()	()	

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に、数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

※畑地の面積は含めないこと。

※28 年度の支援の有無の欄は、産地交付金による助成を行う取組は「有」を、助成を行わない取組は「無」を記載する。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり